

2009.05.21 : 経済環境委員会

「みんなの森づくり事業について」

池田友信委員

今の論議をいろいろ聞きまして、ちょっとこれからのことも含めて気づいた点をちょっと意見させていただきますが、今回のこのみんなの森づくり事業については11ヘクタール、1万6400本プラスしいたけの森という部分の報告なんですけど、要するに仙台市の全体の中でどんな形でみんなの森づくり事業というのが進んでいくのか、計画されているのかということがちょっと表現されていないので、その意味ではこのみんなの森づくり事業というのは全体の中で何%の、どれだけの占める余地があって、それがこの形でみんなの森をつくっていくよというふうな、そういう取り組み計画みたいなことはあるんですか。

農林部長

先ほど来みんなの森づくり事業に関しましては、山林そのものを創出していくというような趣旨で事業を実施しているといいますよりは、実は山林とか林業とかというものに対して市民に興味を持っていただくとか、あるいは置かれている現状を理解していただくとか、あるいは体験を通じて山林のすばらしさを感じていただくとか、そういう趣旨で行っておりますので、山林の市有林の何%をこれでやるかというような計画にはなっていないところでございます。

池田友信委員

先ほど質問の中でも同じ場所でとかではなくて、やはりせつかくあるこういうことをそれぞれの地域に計画的に、年次ごとに場所を移していくとか、そういう形になれば、ことしは太白区だけれども来年は青葉区のこの地域をひとつターゲットにして、ここにもしいたけをつくっていかうとか、あるいはこういったみんなで楽しい市民参加のものを計画するとか、そういうことができれば、計画的に示しておけば、参加する人は来年は青葉区のこの地域だよということがわかれば、子供たちも参加する計画を事前に募っておいて、学校にも事前に話をし、そして事前にそういう森林の勉強もさせて、そしてそのために森づくりに参加してくださいよというふうなことの計画がないと、これは単発的ですから。それではやはりせつかくやる事業としては、仙台市の市有林の中で場所によっては今度宮城野区に移るとか、場所によっては今度市外にも市有林があると思うんです。その辺をうまく活用すると隣接の、多賀城なら多賀城の方に仙台市が行って、多賀城の子供たちにもそういうふうな形で御招待するとかというふうな形にやってくれば。計画的に、事前にそう示していくということがいかに参加者を。参加者ゼロというのはやはりまずいです。ですから、そういう計画を持つべきだと思うんですが、いか

がですか。

#### 経済局長

市外も含めると、仙台市の市有林全体としまして1,600ヘクタールからの面積を擁しているところをごさいます、そういう中で、それはそれとしてさまざま整備していかなければいけないわけですが、その中の一つの、トピックというわけではありませんけれども、エリアを特定した形で、それも約5ヘクタールから6ヘクタールという範囲ということもございまして、それをその年だけでその事業を一つ完結させるということも一つの考えとして、翌年は次のということも考え方としてはあろうかと存じますが、一応一定の場所を選定しました際にはまとまった5ヘクタールというものを想定しますと、5年程度を事業期間としてやはりどうしても設けたいということでもございまして。

そういう意味で、本来池田委員がお話しされましたように、5区あるわけですから各区を毎年順次できれば理想かとは存じますが、そういう意味で私どもとしましては現在さまざまな形で参加もいただいておりますけれども、もう少し今ここでしいたけの森づくり事業をやりますよということをもう少し市民の皆様にお知らせの仕方をもっと工夫をさせていただいて、そういう中で5年間はここでやるにしましても、広く市民の方が参加していただけるような手法について検討させていただきたいと存じます。

#### 池田友信委員

仙台市は杜の都と言われてますから、まちの定禅寺通のケヤキの問題ばかりじゃなくて、やはり仙台市の所有する緑ということに対する行政の取り組み方の姿勢というのが非常に大事だと思うんです。したがって、こういった事業についても、その年度、年度の単発だけでいくんじゃなくて、計画的にやるというようなことも含めて、これからいかに市民に参加してもらうかということが、一つ一つのこういった事業とか活動については私は大変大事だと。

その中で、ぜひ経済局の方で理念を持っていただきたいというものが一つあるんです。それは何かといいますと、実は先般、気仙沼市の鈴木市長がじかに実は川の環境状況を視察したいと。なぜかという、漁業組合の人たちが、気仙沼の海産物がよく育つためにはやはり山をきちっとしないとだめだと、山の植物をいいものを植えなければだめだということで、漁業組合が植林しているわけです。しかし、途中の川で管理が悪ければだめだということになって、どんな形で河川を管理をしているんですかということの梅田川の視察にわざわざみずから市長がいろいろな関係者を連れて来たんです。それで海産物のこれからのことを考えていくと、山、川、海といったものが一体にならなければだめだということで、そこで植林も含めて考えているんです。

では、仙台市の方で市有林の理念、考え方、どんなものがあるのかと。非常に私が感

じるのは、私も河川関係をいろいろ愛護活動をやっているんですが、余りにも戦後の植林のやり方というものが結局木材を優先した植林になっているんです。仙台市だってほとんど常緑樹でしょう。常緑樹は山の、先ほどの森づくり事業の趣旨の中にもありましたけれども、水源涵養や国土の保全と言いますけれども、国土の保全ということを考えたら逆、常緑樹はいいのかと。常緑樹が何%を占めればよくて、落葉樹はどういうふうな部分での役割があるのかというようなことを考えていくと、常緑樹で木材になることを最優先にした戦後のやり方というものは、これからの中でやはり考えなければならないと思うんです。木材はいいけれども、弊害が出ています。花粉症は出る、常緑樹は落ちない、土壌としては非常にそういった意味で落葉樹とは違って非常に土石流に流されるような、国土の保全にしては全く常緑樹はこれだけではだめです。

したがって、そろそろそういう意味での市有林をある程度植えかえなければならないということは私は考えなければならないと。ですから、森づくりの中にぜひ市有林の中でのあり方とか、そういうものをぜひこれからの事業の中に考えて、そういう取り組みもしながら、やはり一般の方々の参加もいただいて理解、協力をいただいて。そういった公的な市有林から次に出てくるのが私有林なんです。それにつながって公園につながると。こういう形で、ぜひ仙台市としての森林事業に対する取り組み方について、5カ年計画でやっているようでありましてけれども、そういう理念も含めて計画的にやっていくべきではないかなと思うんですが、いかがですか。

#### 経済局長

仙台市の6割、非常に相当広い割合を占めております本市の森林が本市にとって果たす役割については、一経済局だけでなく、非常に大きな課題があらうかと思えます。

そういう中で、これまでも市有林という位置づけではございましたけれども、部局間の整理の仕方の中で建設局として緑全体の中で所管をさせた方がいいというような検討をした時期と、経済局で市有林全般を持っていたときと、これまでさまざまな経過がございます。それはまさに池田委員のお話にありましたように、戦後の植林計画に対してどういうふうに見ていくかということの一つの結果だったろうということも思っているところでございます。

そういう中で、一定の整理もその後されてきた中で、経済局としましてはどちらかという経済林、産業とのかかわりの中での市有林の整備というふうな視点をどちらかというもってしております。そういう中で、本市の全体の緑のあり方、森林のあり方という計画が当然策定をされてこようかと思えますので、そういう中で私どもの経済局で所管しております部分についてもきちっとした位置づけをいただきながら、その中でこういった森づくり事業についても普及啓発という部分がございますので、そういう中でも位置づけをきちっとしていただけるように、私どもも関係局との中できちっと協議をしてまいりたいと存じます。

池田友信委員

きょうはこれ以上深く聞きませんが、例えば間伐するということではいいんですが、その間伐したものをどうするのと、どういうふうにするのというようなこととかということをお考えすると、これは経済局だけで考えるのではなくて、やはり建設局ともいろいろな調整をする、場合によっては県との調整もして、例えば今求められているのは河川関係の護岸に対して間伐材を利用して、そしてコンクリートでがしっとしないで昔の100年前の川づくりに戻すべきじゃないかと。

そういうことをお考えすると、間伐材の利用というのはいっぱいいろいろあるんです。だけれども、余り検討されていない、利用されていないという部分がありますから、ぜひそういうことも含めて御検討されまして、特にこういったみんなの森づくりということになりますと、市民から見れば多くの仙台市の森づくりというふうな受けとめで理解いただくわけがありますから、ぜひ参加者ゼロなんていうことにならないように計画的に全員に説明をし、みんなで勉強して森、それから緑、それから国土の問題と含めて、あらゆる人たちの参加によっていい事業になるようにぜひ工夫をして取り組んでいただきたいということを申し上げまして質問を終わります。